

研究についてのご案内

平成29年6月1日

千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

現在、認知行動生理学教室では、「医学生への社交不安の認知行動療法講義の有効性に関する自記式質問紙調査研究」を行っています。今後の学習効果向上や治療に役立てることを目的に、この研究では学生さんの自記式質問紙（アンケート）の回答情報などを利用させていただきます。自記式質問紙の情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「医学生への社交不安の認知行動療法講義の有効性に関する自記式質問紙調査研究」

2. 研究の意義・目的 「社交不安は、対人関係で生じる不安のことで、過剰に持続すると、社交不安症という心の病気に至ります。社交不安症の治療法として、考え方（認知）や行動のバランスをとる認知行動療法という精神療法・心理療法が薬物療法を超える有効性を持つことが国内外で証明されています。

本研究の目的は、千葉大学の医学部学生2年生、3年生が、学年全体で受講する学部教育において、講義形式（5回シリーズ）で、社交不安の認知行動療法を体験的に学習してもらい、その前後で実際に自分の社交不安の程度を自記式質問紙にて測定し、その変化を調査する一方で、認知行動療法ではない通常講義を受ける前後での医学部1年生、4年生、5年生、6年生にも、同様の社交不安の程度を自記式質問紙にて測定し、その変化を調査して、それぞれの学年を比較して、認知行動療法の講義の有効性を探索的に検証することです。

本研究により、医学部2年生、3年生が講義形式で認知行動療法を学ぶことで、対人不安をコントロールできる知識とスキルを向上させることが明らかにすることができれば、有意義と考えています。」

3. 研究の方法 学部教育の一環として、医学部2年生、3年生全員に対して、『自分で治す「社交不安症」』（法研、清水栄司著、2014）というワークブックを副読本として、認知行動療法に関する講義を5回程度のシリーズで受けてもらいます。具体的には、研究者が講師として、ワークブックに則した内容を30分程度講義し、ホームワークとして各自で

ワークブックに取り組んでもらいます。その時に、質問紙調査研究への協力を依頼します。一方、比較対照群として、学部教育の一環として、医学部1年生、4年生、5年生、6年生全員に、認知行動療法でない講義シリーズを受けてもらっている方にも、質問紙調査研究への協力を依頼します。

調査研究として、自記式質問紙であるリボビッツ社交不安尺度 LSAS (Liebowitz Social Anxiety Scale) の日本語版に、講義シリーズの開始前と開始後の2回、回答をしていただきます。同時に、回答者の氏名、学生証番号、年齢、性別の個人情報記載をしてもらって、講義前後に、研究者に提出してもらいます。質問紙は、講義のテストと同様に、学生の個人情報として、厳重に管理されます。また、匿名化された電子データとして解析されます。

自記式質問紙調査については、研究として行われるので、同意できる場合に、調査研究に参加をお願いします。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、学生の氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学 教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 研究に 自記式質問紙の情報などを利用して欲しくない場合について

未成年者の場合でも、大学生のため研究に参加することに関する十分な判断力を有すると判断し、本人からの同意を受けますが、保護者からの研究参加を拒否できる機会を保障しております。ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

このページ（「研究についてのご案内」）は、文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいた揭示です。

研究実施機関 : 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

本件のお問合せ先 :

千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学 教授 清水栄司

千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学 講師 松澤大輔

千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学 助教 須藤千尋

【連絡先】

千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

住 所：千葉市中央区亥鼻 1 - 8 - 1

電 話：043-226-2027（受付）

